

Kyoto Seika University

京都精華大学

2015

ポピュラーカルチャー学部

Popular Culture

芸術学部

Art

デザイン学部

Design

マンガ学部

Manga

人文学部

Humanities

自由になること、
それが未来を
つくり出す。

あなたは10年後の自分を、どんなふうに思い描いているだろう。
そんな先のことまで考えられない？ そうかもしれない。
就職できるのかな？ そういう不安を感じているかもしれない。
昨日までもてはやされた仕事や、安定しているといわれた会社も、数年先はわからない。
堅実な進路や就職先を選んだつもりでも、あっという間に常識は移り変わってゆく。
みんな、不確かな未来をおそれて、縮こまっている。
振り落とされないように、目先の安定を求めている。
そんな時代だからこそ、考えてみてほしい。
「自由であること」の意味を。
想像してみてほしい。
自分の好きな分野で、信じた道をまっすぐ歩き、
新しい仕事を、誰も想像しなかったやり方で作り出してゆく将来を。
ひとつの正解やものさしに縛られて、横目で周囲をうかがうよりも、
あなた自身が自由であること。自信をもって「自分にはこれがある」と言えること。
未来をつかむには、それがいちばん大事で、もっとも強い武器になる。
京都精華大学は、1968年の創立からずっと「自由自治」を掲げてきた。
自由な学問や表現とは何か。すべての者が自由でいられる大学とは何か。
みんなが考えつづけてきたこの場所で、
あなた自身の自由と、わくわくするような未来をみつけてほしい。



学長からのメッセージ

マンガという表現手段は、私にとっては文字よりも雄弁です。また、描いた作品が独り歩きして、思いもかけない世界を私にもたらしてくれたりします。

私はマンガ家として、もう50年近く描いてきましたが、まさに手仕事の連続でした。ペン先を自分の手になじむよう削ったり、誰も持っていないスクリーントーンを作ったり。それはつまり、何も道具が無くても自分のしたいように工夫する、ということであり、人間が生きていくのに必要な能力は、こんなところでも培われるのだと思いました。

マンガに限らず、何かを手で作ることは、そのまま自分の中に自信を残してくれます。失敗もまた、次の間違いを起こさないための大事な情報です。

京都精華大学は「手仕事」を大事にし、応援する大学です。

芸術・デザイン・マンガ・ポピュラーカルチャー、そしてことばを紡ぎながら、ゆっくりと自分のことを考え、作るもののかたちを考え、そして世界について考えます。

それが「自分を創る」こと。

アートとカルチャーの大学、京都精華大学で学び、豊かで細やかで、優しく大胆な自分を手に入れてみよう。

竹宮恵子 マンガ家

京都精華大学マンガ学部 ストーリーマンガコース教員
学長任期 2014年4月1日～2018年3月31日

1950年徳島県生まれ。68年、『週刊マーガレット』（集英社）の新人賞に佳作入選した「リンゴの罪」でデビュー。代表作『風と木の詩』『地球へ…』で小学館漫画賞受賞。両作品は共にアニメ化されている。また、少女マンガだけでなく少年マンガや企業マンガなどさまざまなジャンルで活躍。2000年に京都精華大学の教員となり、マンガ制作の技術指導に加え、カリキュラムや教材作成などマンガ教育の体制づくりに尽力。また、文章では理解しにくい情報をマンガで描く「機能マンガ」や、史料性の高い複製原画「原画」（げんがだっしゅ）の開発などを行っている。08年から4年間、マンガ学部長をつとめた。



京都精華大学を支える理念

京都精華大学には建学の理念というべき文章があります。それは、京都精華大学の前身・京都精華短期大学の開学にあたって、初代学長就任の要請を受けた岡本清一が条件として提出した「教育の基本方針に関する覚書」。その内容は、基本に「人間の尊重」が語られ、教員には学生に対する「無限の愛情」の責任を課し、そして「自由自治」を掲げるなど、大学教育の指針としては画期的なものとして注目を集めました。精華の歴史は、これに賛同する教員・職員・スタッフが集まりスタートしたのです。

しかし、これらの言葉ははじまりにあっていただけではありません。「教育の基本方針に関する覚書」に記されていた精神は、その後も一貫して精華のなかに生きつづけています。

たとえば、「自由自治」は開学以来、常にすべての活動の指針として語られてきました。文化と芸術の創造、新しい社会の建設にたずさわる者を育成する場には、自由な思考が開花する土壌が求められる——。そんな考えから特定の価値観を絶対化することなく、新しいものへの挑戦を尊重してきました。

あるいは、人間を尊重する精神は、開学時から「人格的平等主義」として強く打ち出されています。社会的差別を認めない思想を学問の基盤にすえたことはもちろん、教員、職員、学生の関係においても、平等に大学の創造に参加するという原則をつらぬいてきました。

「国際主義」も、覚書の精神が発展したもの。国家や宗教、民族を超えた人間的交流こそが真理を探る出発点になるとの考え方から、海外のさまざまな大学と提携し、学生が海外体験できるプログラムを用意。留学生たちも多様な国から集まっています。

さらに、覚書の理念を基盤にして、新たな伝統も生まれています。精華では「学際主義」「現場主義」を掲げ、1973年、世界初のマンガクラス開設にはじまって、人文学部、デザイン学部、マンガ学部、ポピュラーカルチャー学部の開設など、既存の枠組みにとらわれることなく、学問の領域を常に広げてきました。また、調査演習や京都の伝統産業工房での学外実習など、実際の現場で体験し学習することを重視するプログラムも生み出しています。

新しい大学に、岡本清一が理想を託した「教育の基本方針に関する覚書」。その精神は、これからも変わることなく、教員、職員、そして学生の手によって守られていきます。

京都精華短期大学における教育の基本方針に関する覚書

- 一 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の骨骨をなすものである。
- 二 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
- 三 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格的感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人に対する敬愛の心を養う。
- 四 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
- 五 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかられる。従って学生は、学内の秩序と環境の整備に対して責任を負わなければならない。
- 六 礼と言葉の兼ねが、新しい時代に向かって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かねばならない。
- 七 かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

1967年3月25日

岡本清一

